

音声教育から言語教育について考えよう

講師：河野 俊之 氏
(横浜国立大学教育学部教授)

開催日時：2017年12月9日(土) 15:00 - 17:00

会場：上智大学四谷キャンパス 12号館 1階 102教室

対象：日本語・言語教育全般に関心のある教員および学生

参加方法：事前申込不要・参加費無料

(学外からの参加も可能です。会場定員に達し次第、受付を終了させていただきますのでご了承ください)

母語話者と間違われるぐらい外国語が上手になりたいという人はたくさんいます。そのときにどうしても残るのが発音の問題です。そこで、本講演では音声教育について考えていきます。

まず、シャドーイングについて考えます。現在、音声教育では、シャドーイングが盛んで、教材も多数出版されています。しかし、シャドーイングをさせるだけでは、教師の役割を果たしているとは言えないのではないのでしょうか。そこで、シャドーイングの問題点を指摘し、それを補う方法を考えます。

次に、アクセントの教育について考えます。アクセントは一つひとつ覚えなければならないと考えられているため、一つひとつリピートさせたり、聞いて、下がり目を答えさせたり、また、そのアクセント型を覚えさせたりするのが一般的です。しかし、これも、教師の役割を果たしているとは言えないのではないのでしょうか。そこで、アクセントを教えるとはどういうことか、また、その方法を考えます。

これらの中で重要なのは、発音は教え込むものではなく、学習者の習得に寄り添い、支援するということです。それは音声教育のみでなく、全ての教育につながると考えています。

講演者紹介

略歴：専門は日本語教育方法論、日本語教師養成・教育、音声教育、音声学。日本語教師になったきっかけは、高校生のときに、当時、名古屋大学の水谷修先生のご著書を読んだこと。ただ、日本語教師になり、その後、日本語教師養成や音声教育の道に入るとは思っていなかった。しかし、今は、天職と信じてハードワークをする覚悟である。編著書に、『音声教育の実践』(くろしお出版)、『1日10分の発音練習』(くろしお出版)、『日本語教師のための音声教育を考える本』(アルク)、『日本語教育の過去・現在・未来 第4巻 音声』(凡人社)、『教えよう日本語—考え続ける日本語教師になるためのタスク』(凡人社)、『日本語教師のための「授業力」を磨く30のテーマ。』(アルク)、『日本語教育の過去・現在・未来 第2巻 教師』(凡人社)、などがある。

